

## 大分教育事務所訪問②-18 (計91)

# 臼杵市立上北小学校に学ぶ2

## 学校経営から学ぶ

「学校評価の4点セット」のそれぞれの取組について、教職員等の実施率と取組状況、子どもの達成状況と検証から、挨拶と読書の重点的な取り組みが明確になっている等、実効的な検証・改善が行われています。また、コロナ禍で地域との交流が減ってきたものの、地域との田んぼ活動や芋掘り体験、お醤油博士等工夫をしながら行っています。

注目すべきは、実感を伴う働き方改革が行われていることです。昨年度に比べ3名の職員が減ったことを改革の機ととらえ、負担の大きい担当は複数担当として行ったり、職員室等の環境を整備したりすることで、働きやすい職場づくりを行っています。また、管理職は子どもの頑張りを応援したり、子ども達にもタブレットの活用をすすめ子ども自身が隙間時間に学習できるような環境としたりすることで、単に時間外勤務時間が減るだけでなく、協働的な取り組みによる負担軽減を職員が実感できていますね。

今後は、学校として育成を目指す資質・能力である「協働的な学び・表現力・規範意識」について、「子どもが協働的な学びを行うために、子どもが規範意識を持つためにはどのような力(資質・能力)をつけることが必要か」を協議をとおして明確にすると、それぞれの取組指標が何のために行うか共通理解が図られると思いました。また、保護者や地域の方とも熟議等を行うことで、より協働的な取組が行われると思えます。

※参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 pp.47-53 (2)教科等横断的な視点に立った資質・能力

ア言語能力」

## 授業から学ぶ

どの授業も子ども達が積極的に学びに向かっていました。特に、4、5年生の特別活動では、それぞれの学年の良さを生かしながら課題を解決するという、異学年交流の良さを十分生かした授業でした。このような子どもの力を信じて、それぞれの良さを生かす授業実践は、管内の特に小規模校の好事例として発信してほしいと思いました。

指導案の本時のねらいはどれも明確でした。これからも「振り返り」については教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」で表し、今後は互見授業等でその「振り返り」と「ねらい」との連動や評価規準との整合性について協議することで、授業改善がより推進されると思いました。



### か 考え表現できる

自分が考えたことを表現できるのは、みんなが反応してくれるから。つながりあえるから。



### み 認め合い支え合う

相手の良さを認めるから、自分の良さを知ることができる。本気で相手を支えるから、困った時に支えてもらえる。



### き 決まりを守る

一人をつくらないため。それぞれの良さを認め合うため。学び合い成長するため。自分も相手も楽しむため。



### た 逞しい心と体

それぞれの良さや価値を伝え合うから、共に信頼できる。自信がもてる。だから、チャレンジできる。